

項目		説明
試料・情報の利 用目的 及び 利用方法	研究課題名	リンパ節における脈管構造に関する組織学的研究
	研究目的	がんの転移の予防は、がん治療の大きな課題の一つです。これまでは、リンパ節に転移したがんが血液の流れに乗って全身に転移する際には、リンパ節から出るリンパ管が血管に流れ込む経路を辿ると考えられていました。ところが、ネズミを使った動物実験で、リンパ節から直接、周囲の静脈にがん細胞が入り込む経路がみつかりました。この研究では、同様の事が、ヒトのリンパ節でも起こる可能性があるかどうかを、手術の際にがんと一緒に切除されたリンパ節のうち、病理診断のために使った余りの検体を使用して解析します。
	研究対象者	2014年8月31日～2021年3月31日までの間に当センターでがんの手術を受けた、あるいは受ける患者さん
	研究期間	西暦 2019年 10月 2日 ～ 西暦 2022年 3月 31日
利用する試料・情報の項目 (チェック[X]が入った項目を利用します)		<input type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> だ液 <input type="checkbox"/> 臨床検査データ <input checked="" type="checkbox"/> 病理組織 <input type="checkbox"/> 排泄物(尿・便) <input type="checkbox"/> その他(記載して下さい) <input type="checkbox"/> 毛髪 <input checked="" type="checkbox"/> 診療記録
試料・情報の 管理について の責任者	当センター 研究責任者	宮城洋平
試料・ 情報を 利用す る者の 範囲	当センターでの実施診療科/部局等	臨床研究所がん分子病態学部、頭頸部外科、病理診断科
	共同研究の場合、共同研究機関および各施設での研究責任者	東北大学大学院医工学研究科 教授・小玉哲也 東京大学医科学研究所抗体ワクチンセンター(兼)滋賀医科大学医学部臨床腫瘍学 教授・醍醐弥太郎